大正九年十二月二十四日 第三種郵便物認可

夕刊
新京日日新聞

定價 一部金三錢 一ケ月金八十錢 ……
新京永樂町四丁目一番地 發行所 新京日日新聞社
發行人 十河泰忠 編輯人 松本 印刷人 谷 啓二郎

日支關稅協定 自然消滅の形
但し對支貿易には無影響

日本の支那關稅自主權の承認と同時に一九三〇年五月締結された最初の日支互惠平等協定たる日支關稅協定は愈々昨十五日を以て三ケ年間の有效期間を

＝滿了＝ し自然消滅することゝなつた、日支關係が常態にあれば協定効力期間の滿期に先立ち最初の協定に代るべき第二回目の互惠主義を原則とする關稅協定が締結されてあるべき筈であるが、九、一八事變以來の日支關係の變態と支那側の依然改めぬ「以夷制夷」の外交方針並にその不誠意極まる態度の爲に日支直接交涉は遂に開かれず、從つて本協定滿期後の措置に關しても具體的の論議となることなくその自然消滅を見送ることゝなつた、協定滿期前我が對支貿易業者間には支那側が滿洲事變に對する一種の手段として、日本品關係の品目に高率輸稅引上げを行ふのであるまいかとその成行は、一時相當に

＝注視＝ されてゐたが、日支兩國間は最惠國條款の規定もあり、日本品のみ高率な課稅をする事の出來ない關係にある尤も支那が日本から輸入する主要品目につき現行稅率を改めればそれまでであるが、そこで支那側當局も日支關稅協定滿期後は日本品に對し一九三一年制定の現行關稅を適用する旨を決定し各海關機關に通達してゐるから從來協定稅率の恩惠を適用されて來た對支貿易の三割を占め綿布はじめ雜貨、海產物、小麥粉其他主要輸出品の關稅率は本十六日以後外國品なみの稅率で取扱はるることとなり一方協定稅率と現行國定稅率との間には從來でも大差がなかつたこと、ただ稅率協定に據り從來賦課を免かれてゐた、二つの附加稅即ち水災附加稅五分、小麥借款附加稅五分合計一割(稅率に對し)の附加稅を徵される程度で實際上の

＝影響＝ は殆どなく關稅からの悲觀は、まずないと觀られてゐる、尙南京總商會は協定滿期後の日貨輸入禁止方を提議してゐるが日支兩國間の國交は斷絕されてゐる譯ではないから斯樣な提議は實行されるものではないと支那側稅務署要人も觀測してゐるからこうした杞憂もない

庶民金融機關
金融組合設置の計畫

滿洲國財政部においては國內庶民金融機關を整備するため全滿に統制ある金融組合を設置すべく、目下金融組合法の起草を急いで居るが、同案は非常なる好成績を收めてゐる朝鮮金融組合に範を執り近く設立さるゝ興業拓產銀行を親銀行として各省に金融組合聯合會を設置その監督下に各地に金融組合を置き組合加入者への金融を圖らんとするもので遲くも本年十月迄には實現すべく期待されてゐる

日本綿糸布に 高率關稅

〔天津十五日發國通〕綿絲布の暴落と夥しきストックの爲金融の途を失つた支那紡績業は操業短縮の悲鳴を擧げてゐるに拘はらず日本綿絲布は値段安の爲、日貨排斥の聲を尻目にかけ約五、六倍の激增を示してゐる旺盛さなので、關稅を極度に引上げて日本品の輸入を防止すべしとの聲が最近支那紡績業者に依つて呼ばれるに至り、彼等は當局に向つて猛運動を開始してゐる

中銀週報

中央銀行紙幣每週平均額表左の如し(自四月廿八日至五月四日)

發行額	一三九、一三三、八七三圓〇六
準備	七一、五五四、六六五・三一
保證	五五、五五八、二二七・九六

熱河經濟事情(二)
關東軍顧問 鈴木穆氏述

地勢

扨、熱河とは如何なる處でありませうか、試みに皆樣の左の掌を開き輕く指を伸べて眺めて頂きます。指先全部を繫いた形が大體熱河省でありまして、小指の先きが開魯、我が茂木部隊の初めて取つた町であります。中指の元が赤峰に當ります。熱河省の中心に位ゐして戶數、人口熱河第一の殷盛な都です。小指の附け根が北票で鐵道の終點です。其少し下つた處が朝陽で、三月一日西部隊の出發した所です、親指の元が省府承德であつて、小指と親指の附け根の間の大凡の處が國境と云ふ

熱河第一の森林地帶があります。掌と腕との境が萬里の長城で、其の中間の皺筋が灤河と云ふ大河で圍場より流れ出します。東北部たる藥指と小指の方面は一般に平野で砂地多く右方奉天省に連續します又中指、食指、母指を連結した處が有名の興安嶺山脈で、然かも親指の外側、左方支那本部から陰山山脈が顯はれ掌の下部の肉の高き部分は即ち峻險な山岳重疊の地帶であります。小指の元、朝陽から此の山岳地帶を强行軍して親指の元にある承德に攻め入つたのであります。能く御自分の掌で地勢を察して頂きます。

熱河の稱は元蒙古人が今の承德附近の河を熱き河と呼んで居たのを漢人が熱河と書いたのが起りたと云ふことです。承德には有名な清朝皇室の離宮があり其內に溫泉が湧出し河水が微溫を帶び嚴冬の頃も凍らない處から起つた名稱たとも謂はれます

今から二百三十年前康熙帝が熱河即ち今の承德に行かれ行在所を設け木蘭圍場の狩獵をされたと云ふことです。新樣に承德の地を撰んで行宮を設けた趣旨は單に行樂の爲めではなく一朝有事の際は滿洲人及蒙古人を提げて敵に當らふと云ふ積りだつたと云はれて居ます。山を繞り谷を埋めて山莊造營の大工事を起したのは康熙四十二年から四十七年の六年に亘り其成るや康熙帝自ら避暑山莊と命名されました、即ち今から二百二十五、六年前のことであります。帝は每年五六月から八九月頃迄此地に在つたので蒙古王公や其他の貴族は此處で朝覲し名は山莊とは謂へ實は北京の附都とも云ふべきものであつたのです。

康熙帝より一代置いて乾隆帝が立つに及んで此地は更に繁盛し部統の官を設けて統治に任せしめ府州縣を設ける等殆んど支那本部同樣の取扱を爲し塞內塞外の區別が無くなつた如くでありました、行宮の設も是迄八ケ處で在つたものを十三ケ處に增加しました斯くして有名な避暑山莊は乾隆帝に至つて大に輪奐の美を成しました

熱河における寺院の建築は特筆すべきものがあります、康熙帝の時よ僅かに三寺に過ぎませんでしたが乾隆帝になり積極的に寺院の建築を始め種々の口實を設けて無暗に寺院を造り山莊內に九つの大寺院を始め更に郊外に八堂の大寺廟を建てました、以上の寺院は何れも喇嘛敎のものでありまして夫々各式を完備し互に粹を競つたと云はれます此等は何れも朝廷が間接直接に造營せしものでありますが此他に蒙古人を勸誘獎勵して寺院の建築をやらした數は夥しいものでありまして熱河省にある二十三族の(縣と同一であります)各族に今日多きは二十四寺少なきも八寺があります、あらゆる財力を傾して無暗に建築せしめたものと思はれます。蒙古人衰微の最大原因を成して居ると考へられます [illegible]

全國四月 對外貿易額

〔東京十五日發國通〕(大藏省發表)朝鮮、臺灣、南洋を含む帝國全領土の四月中の對外貿易は左の通り(單位千圓)

輸出	一三七、三二二
輸入	一六四、七七七
計	三〇二、一〇〇
入超	二七、四五四

一月以降累計	(圓)
輸出	五二〇、二九九
輸入	七三三、九八九
計	一、二五三、二八八
入超	二一三、六九〇

全滿清鄕局指導員を
各縣警務指導官に配屬さす

國內治安維持確保のため全滿各縣清鄕局にあつて行政指導員たる各縣參事官と協力して縣警察制度の確立、機關の充實警官素質の向上に努めつゝある警務指導官の勢力は絕大なものがあるが、これ等指導官將來の歸屬に關しては所管民政部に於て種々考慮されてゐるが縣行政指導官として洲國行政に通ぜる日本人參事官を置き縣行政上に重大なる役割をしてゐるに鑑み之等警務指導官も官制により各縣職員として配屬され警務指導の任に當るべきものとされ、近くこれが實現を見る模樣である

加盟銀行預金 六十億八千萬圓に達す

〔東京十五日發國通〕東京手形交換所調查による四月末現在の全國手形交換所(三十六ケ所)加盟銀行諸勘定によれば預金增貸出減の傾向益々甚しく預金合計は前月より四千萬圓、前年同月より六億四千六百萬圓を增加して六十億八千萬圓と昭和四年六月末以來の最高記錄を示し、貸出は前月より六千二百萬圓を減じて四十九億九千九百萬圓と遂に五十億圓臺を割り、大正十二年三月末以來十一年振りの最低記錄を作つた

四月中の 對滿支貿易

〔東京十五日發國通〕大藏省發表、四月中の對滿(關東州、中華民國及香港)貿易額左の如し(單位千圓)

輸出	二五、〇六八
輸入	一六、六九九
合計	四一、七六七
出超	八、三六九

尙ほ一月以降累計左の如し

輸出	一三二、五八二
輸入	九七、九八七
出超	三四、五九五

東邊道移民の 調查班出發

東邊道一帶の移民適地調查第三班は廿五日頃新京出發、桓仁柳河、輯安を中心に六、七八個月に亘つて調查を行ふ筈で、一行は朝鮮總督府側より技師一名、技術員四名、關東廳、滿洲國側より各一名で主として鮮人關係の調查を行ふ筈

銀の搬出は旅者 制限付で許可

〔奉天十五日發國通〕滿洲國では曩に銀の國外搬出を禁じて居たが、今回旅客携帶の銀貨及銀製品、身の廻り品、裝品具等その旅行者の必要と認める限度において之れが禁止を解く事となり、安東稅關では十二日付告示を以て布告した

怪人凱歌 (二百十八)
(講談上演 映畫化) 須藤鐘一 (畫) 瀧秋方

更生の人々 (二)

『逢はせてやりました』と、白瀧が答へると、案內和尙は頷いて、

『それはよかつた。さぞ喜んだらうな。——それから、今ではどうしてゐるかい?』

『あの喜美子といふ女の先の亭主は、もう死んでしまひましたので二人を夫婦にしてやりました。今では横濱で小さな菓子店を出して睦まじく暮らしてをります』

『さうか、それはよかつた』

『二人とも生死の境を通りぬけて來ましただけに、人間はすつかり出來たやうです。僕が最初新しい運命を授けてやると出たら目に云つた事が、實際さうなりました。人生は全く不思議なものですな』

二人が話してゐるとき、入口に訪なふものがあるので、白瀧が立つて出て見ると、それは元山路伯

爵家の家扶をしてゐた三木貞介であつた。

白瀧の方では、嘗て眞佐子や信也、千鶴子の事を調べた時、それとなく三木の顏を見て知つてゐるのだが、三木の方ではまだ一面識のない白瀧であつた。

此の寺へ來たのも初めてである、いつぞや山路伯爵の遺言狀に關し伯爵の遺子の有無を確める爲めに此の村へ來たには來たが、漁師の藤兵衞に逢つて、緞もけろいの挨拶をされ、取りつくしまもない形で、其のまゝすご〳〵と歸京したのであつた。

その後、三木老人はどうしても遺子問題の片をつけないでは、第一先代伯爵の靈に對して申譯が立たぬといふ昔氣質から、私立探偵岡野敬三に其の取調方を依賴したその結果、いろ〳〵と山路家に關する秘密も分り、遺子藤田眞佐子も現存してゐる事が判明したのである。

『突然お伺ひいたしまして……實は御住職樣に是非お目にかゝりたいので……』

『どういふ御用向ですか?』

『私は斯ういふものでございまして……』と名刺を差出し『ちよつとお目にかゝつてお願み申しあげたい事がございますんで……どうぞ宜しくお取次を願ひます』と、丁寧に頭をさげる。

『そのお願みとおつしやるのは、山路伯爵の遺言狀に關する事ではありませんか?』

『え?』と三木老人は圖星をさゝれてギクリとしたが、あらためて夕ぐれの薄光に、取次の男の顏を透かしながら『あなた樣は、それに就いて何か御存じでゐらつしやいますんで?』と、老眼を瞬りにショボ〳〵と瞬かす。

『僕は譯があつて、其のいきさつをすつかり知つてゐるのです』

『すると、あなた樣は一體、どなた樣で?』と、老人は益々驚きの眼を見張る。

『白瀧岩雄といふものですが、實は僕は山路伯爵の遺子藤田眞佐子樣に、九死一生の場合を救はれたものです。それ以來、御恩報じのつもりで、ずつと眞佐子樣の影に付添つてゐて、何か危險の起つた時には、飛び出してお助けしてゐるんです』

『夫はどうも有難う御座いました』

『まアお上りなさい。今和尙樣に取次ぎませう』

『どうぞ何分よろしくお願み申します。その眞佐子樣の御幼少の頃のことは、此方の御住職樣が一番よく御存じであると伺ひましたので、兎に角お目にかゝりまして、いろ〳〵お話しを承はり、又若しによつたら眞佐子樣が、きつと先代伯爵樣の忘れ形見に相違ないといふ證人に立つていたゞき度いと思ひまして、伺つたやうな次第でございます』

『それはよい所へ氣がつきました』

そこで案內和尙は早速本院の一室で三木老人に面會した。そして聞はるまゝに藤田お絹が伯爵の胤を宿して眞佐子を生んだ事から、彼女の幼少の頃の事を一さい物語つて聞かせた。

密雲 北平の手前十二里の占領 目睫の間にせまる
鈴木、川原兩部隊前進又前進 既に南省莊を壓迫

（石匣鎭十五日發國通）密雲にある支那軍は後方よりの應援隊と合流して、南省莊附近高地の頑强陣地に據り、挑戰的行動に出づるを以て、鈴木部隊、川原部隊はこれを徹底的に擊滅すべく、密雲に向け前進我先遣部隊は早くも南省莊の敵前に殺到し、密雲占據も目捷の間に迫つた

南省莊附近敵は 友軍の殲滅で既に士氣阻喪

南省莊附近の敵は尖岩西方高地より南省莊西側高地を經て八家庄東側高地に亘る陣地を占領して居るが此の陣地は三週間以上の時日を以て設備し相當堅固なものである事が判明した、此の陣地の敵は第二師にして我軍と戰鬪した經驗なきを以て我軍の强味を知らざるも友軍三ケ師が殲滅せられたるを見て士氣極度に阻喪してゐる

劉桂堂軍 多倫出發

彈藥の補給を了へた劉桂堂軍は李守信軍と緊密な連絡をとり十四日多倫を出發した又王淸永軍は半切塔に達し劉軍の後方にあつて推進に任じてゐる早くも此の形勢を察知した孫殿英、湯玉麟兩軍は沽源を捨て張家口に向け退却を開始した

萬福麟蘆臺に移駐 何は胥各莊で最後的の防備

（山海關十五日發國通）灤西の總敗北に前線總指揮萬福麟は、十四日午後十時、開平より蘆臺に移駐、その部下萬に從つて省城に本部を置き全軍を指揮中、何柱國軍は、また昨夜唐山前方胥各莊停車場に移駐、最後の防備を固めつゝある

我軍續々豐潤へ入城

（奉天十五日發國通）坂本部隊は引續き敵を急追中であるが、松田部隊は豐潤北方より高田部隊は東北より、平賀部隊は東方より、飛行機協力の下に、前面の敵を攻擊、敵は遂に豐潤を放棄し、其主力は玉田方面へ潰走した我が先頭部隊は續々豐潤に入城しつゝある

何應欽 既に逃げ仕度

（北平十五日發國通）前線の敗報と日本飛行機の飛來に極度に怖えた北平軍事分會は重要書類を取りまとめて保定に送ることに決し北平には軍事分會員の一部のみ殘り簡單に事務を處理する事とし何時にても逃げだせる用意をしてゐる、尙同會は十二日より各機關の家族に自由避難を許可した

皇軍の態度を 武藤司令官聲明發表

武藤關東軍司令官は十五日午前十一時長城線附近の昨今の戰況に鑑み次の如き重大聲明を行つた

軍の第一線兵團は今や長城線附近に於て所在當面の支那軍を擊破し目的達成の時正に目睫の間にあり、然して今次作戰の趣旨に關しては過般の聲明によつて明らかなる處此際支那軍にして翻然從來の挑戰的態度を放棄し滿境線より遠く撤退するに於ては軍は速かに長城線に還へりて滿洲國內治安維持の本務につくべき意志あることを屢記の聲明によりて明にしたり、然も雖支那軍にしその態度を改めざるにおいては更に引續き反擊作戰を反覆するの已むを得ざる旨を斷乎として玆に聲明す

唐山以西の 電信不通

（山海關十五日發國通）支那軍の灤洲放棄と共に十四日灤洲電報局員は全部唐山に移り唐山以東の電信は全く不通となつた

密雲、北平間 電話不通となる

當地に達した情報に依れば、密雲、北平間の電話は十二日來不通となつた

上海郊外眞茹に 大無電臺建設

（上海十五日發國通）英國と直接發受信の出來る無電裝置が近く到着の上、活動を開始する事になつて居る放送局は上海郊外眞茹に設けられる筈で既に同所には、米、佛兩國と直接通信の出來る強力なる無電裝置がある

張繼堯暗殺の嫌疑から 于學忠軍を監視

（天津十五日發國通）過般北平六國飯店にて藍衣社刺客のため殺された張繼堯の遺物取調べの結果、于學忠が反蔣陰謀に關係ある嫌疑濃厚となりたるため何應欽との感情大いに阻隔し、十三日軍事分會首腦者會議にて、楊村方面に中央軍一ケ師團を駐屯せしめ、于學忠の監視を嚴重にすることゝなつた

北寧の從業員 續々引揚ぐ

（北平十五日發國通）秦皇島昌黎等方面の鐵道從業員は昨今就業不可能の爲續々平津地方に引上げてゐる、市當局ではこれ等の從業員を他の鐵道に使用して貰ひたいと

新開嶺陣地も 皇軍の猛擊に潰ゆ

新開嶺附近の敵の陣地帶は數條に亘り巾及長さ共に約三里に達し其間高地溪谷は容易に登り難き斷崖を以て圍まれ、且、各重要地點には、掩蔽散兵壕、鐵條網を設け、陣地正面には互に側防し得る機關銃座を分散配置し極めて堅固のものなりしが、我砲、步兵の勇敢なる攻擊と連日天氣晴朗なりし爲め、飛行機の協同動作適切に行はれ、殊に百武大尉の指揮する〇〇隊は、深く敵陣地に突入し、遂にこれを奪取したものであり、此間西〇團長は、敵彈を浴びつゝ戰鬪線上に馬を進め、全軍を指揮せしため我軍の士氣大いに昂つた

石匣鎭以北の敵 第二十五、八十三の兩師

石匣鎭以北にありし敵は捕虜及遺棄死体により第二十五師第八十三師なりし事判明した十三日の戰鬪により二十九師より十名第八十三師より三名の捕虜を得たが戰利品は多數あるも目下搜査中捕虜を見るに一概に十八歲乃至二十三歲の年少者にして疲勞困憊のため步行すら困難の狀態にして唯苛酷なる督戰兵のため必死の抵抗をなしたものの如くである

何應欽排斥の爲 反蔣的人物を北平に送る

（奉天十五日發國通）當地某所入電に依れば蔣介石の命を受け平津地方地盤獲得に專權を振ふ何應欽に對する怨嗟の聲は次第に昂まりつゝあり閻良錫き後の東北軍及雜軍隊中央軍の、確執は日々顯著となり、何時如何なる事が勃發せんとも圖り難き狀態であるが最近廣東より反蔣の色彩濃厚なる王寶珍を北平に派遣し北支將領の連絡を計る一方何應欽の排斥運動をなし灤東問題一段落の曉に之れが、積極行動に出るものと見られて居る

避難民停車場を埋め 死の街と化す北平市街

（北平十五日發國通）灤西の大動搖に人心競々たる折から市內警備司令部では今朝拂曉市內の重要官街には土嚢を積んで嚴重なる陣地を構築、あたかも大軍に追はれる如き緊張振りに市民は一層不安を增し前門車停車場は避難客を以つて埋り避難戶數激增し北平は全く死の街と化しつゝある

敵の救援隊 先づ唐山を退く 豐潤の陷落目睫に迫る

（天津十六日發國通）北寧鐵路正面の敵軍は唐山の四周に防禦陣地を構築、我軍の進擊に備へつゝあるが、市中の商店は固く門扉を鎖し住民は天津方面並びに開灤礦局に避難しつゝあり、市中各機關は一切停止し、來援の救援隊も既に西方に退き、一方豐潤にも既に十六日我軍の先鋒隊現はれ、豐潤の陷落は目睫に迫つてゐる

唐山より總退却

（天津十六日發國通）我軍の猛擊に敵軍は遂に唐山を十五日午後五時半撤退、西南方に總退却中である

王以哲狼狽 北平に逃亡す

（大五里十五日國通宮崎大橋特派員發）最左翼平賀部隊は永平、豐潤街道を前進、十四日朝、王家店に至り高田部隊と劇的會合を行つたが、直ちに運繋配備に就き、平賀部隊は敵陣地の右側背に迴つて對陣一齊に猛十字火を浴せて、午後三時之を陷れ、敵は豐潤街道を北に向つて退却を開始した

此戰鬪で敵は二名の軍長戰死したが、土民の語る處に依れば、綺麗な棺に收め土民に擔がせて運び去つた、さ尙王以哲は大五里退却以來商震軍の督戰隊と入替り、後詰めとなり、王家店にあつたが貝頭山の陣地陷落の報到るや狼狽して北平方面に去り、目下同軍は上將軍の此態度に憤慨し動搖の色あり、上官の威令行はれず、往年の王以哲軍の面影更にない

雪崩を打って 敵退却に奔命

十五日夕高田部隊は豐潤北方約四里にある山頭庄南方高地の敵を擊破し南方に向つて敵を急追中である、又平賀部隊は豐潤東南方四里にある孫家庄の南方部落に據れる敵に對し攻擊中である、これよりさき午前十時四十分頃飛行機の偵察によれば少くとも五千を下らざる敵は豐潤頭山街道を南方に退却中でその後尾を以て頭山を通過した、又豐潤も玉田街道には敵を見受けざるも豐潤の東方陣地には點々として敵の姿を見受ける

灤西地區で 彼我激戰中

（天津十六日發國通）灤河以西に退いた敵軍を壓迫せる我軍は二隊に分れ、一隊は王官營榛子鎭の東北より灤河上流を渡河豐潤以東地區に前進、一隊は北寧線の兩側に沿ひ古冶河平唐山に前進、十五日正午來敵軍と激戰中

日滿合辦通信會社 設立協定けふ發表
全文二十三條よりなる細目
滿洲に於ける日滿合辦通信會社の設立に關する協定

日本國政府及滿洲國政府は關東州南滿洲鐵道附屬地及滿洲國の行政權の下に在る地域に於ける兩國政府所有の電氣通信施設を合併して之が經營を爲すことを希望し之が爲日滿合辦の株式會社を設立するの必要なるを認め玆に左の條款を訂立せり

第一條 日滿兩國政府は協力して日滿合辦の株式會社を設立せしめ關東州南滿洲鐵道附屬地及滿洲國の行政權の下に於て有線無線の電氣通信事業を經營せしむるものとす

前項の電氣通信事業は鐵道及航空事業に附帶するもの並に官署及警備專用のものを含まざるものとす

第二條 本會社の資本金は日本國通貨五千萬圓とす但し日滿兩國政府の認可を受け之を增減することを得

第三條 本會社の株式は記名式とし日滿兩國の政府公共團體若は國民又は兩國の法令の何れかに依り設立したる法人にして其の議決權の過半數が兩國の國民若は法人に屬するものに限り之を所有することを得

第四條 日滿兩國政府は關東州南滿洲鐵道附屬地及滿洲國の行政權の下に在る地域に於て現に兩國政府の所有する電氣通信施設を以て夫々其の出資に充つるものとす

前項の電氣通信施設は鐵道及航空事業に附帶するもの並に官署及警備專用のものを含まざるものとす

滿洲國の國民又は法人は其の所有する電氣通信施設を以て其の出資に充つることを得

本條の現物出資に對しては全額拂込の株式を割當つるものとす

本條の現物出資の價格は其の施設の現有價格を基礎として公正なる方法に依り之を算出するものとす

第五條 本會社の取締役及監査役は日滿兩國の何れか一方の國民たるものとす

本會社の取締役及監査役定員中兩國國民の割合は其の所屬の政府の國民及法人の有する株數に比例するものとす但し一方の國民の取締役及監査役數は他方の國民の取締役及監査役數の三分の一を下らざるものとす

第六條 本會社の利益配當は公正なる一定率を超えざるものとす

政府持株以外の株式に對する利益配當は或程度の率に達する迄政府持株に優先して之を爲すことを得

第七條 第四條の規定に依り滿洲國の國民又は法人の所有する株式に對しては株金每回拂込當時に於ける換算率を標準とし滿洲國通貨を以て利益配當金の支拂を爲すことを得

第八條 本會社の財產所得及營業本會社の爲す登記及登錄並に本會社の事業に要する物件は關東州南滿洲鐵道附屬地及滿洲國の行政權の下に在る地域に於て租稅其の他一切の公課を免除せらるるものとす

第九條 本會社は土地の收用電線路の建設交通機關の利用料金の徵收其の他事業經營上必要なる事項に關し從來官營事業に與へられたる所と同樣の特權を享有するものとす

第十條 本會社の電氣通信施設又は其の附屬設備に屬する物件は之を擔保權の目的と爲し又は差押假差押若は假處分の目的と爲すことを得ず

第十一條 日滿兩國政府は本會社の業務を監督す

日滿兩國政府は本會社の業務に關し監督上必要なる命令を爲すことを得

日滿兩國政府は本會社の決議又は役員の行爲にして本協定兩國の法令若は本會社の定款に違反し公益を害し又は監督官廳の命令に違反したるときはこの決議を取消し又は役員を解任することを得

第十二條 本會社の定款の變更取締役及監査役の選任及解任社債の募集料金の決定及變更利益金の處分合併及解散の決議每營業年度の事業計畫電氣通信に關する業務協定の締結又は電氣通信施設若は其の附屬設備に屬する物件の讓渡に付ては日滿兩國政府の認可を受くるものとす

第十三條 日滿兩國軍事官憲は本會社の事業に關し軍事上必要なる命令を爲し及本會社の施設に對し軍事上必要なる措置を爲すことを得之が爲本會社に損害を被らしめたるときは其の補償を爲すものとす

第十四條 日滿兩國政府は本會社の施設を鐵道航空警備其の他の目的の爲必要なる通信の用に供すべきことを命ずることを得

第十五條 本會社は其の事業經營上必要あるときは鐵道及航空事業に附帶する電氣通信施設又は警備專用の電氣通信施設の利用に付當該國監督官廳に稟申することを得

第十六條 日滿兩國政府は本會社解散の虞ありと認むるときは相當の價格を以て本會社の所有する電氣通信施設及其の附屬設備を買收することを得

第十七條 本會社に付ては本協定に定むるものゝ外日滿兩國政府間に別に定むる所に據るものとす

第十八條 本會社は國際電氣通信に付ては條約其の他の國際取極に定むる所に據るものとす

第十九條 日滿兩國政府は夫々十五名の設立委員を命じ兩國政府監督の下に會社設立に關する一切の事務を處理せしむるものとす

第二十條 設立委員は定款を作り日滿兩國政府の認可を受けたる後株主を募集するものとす

第二十一條 設立委員は株主の募集を終りたるときは株式申込證を日滿兩國政府に提出し會社設立の許可を申請するものとす

前項の許可を受けたるときは設立委員は遲滯なく各株式に付第一回の拂込を爲さしめ其の拂込ありたるときは遲滯なく創立總會を招集するものとす

第二十二條 創立總會終結したるときは設立委員は其の事務を會社に引渡すものとす

第二十三條 本協定は日滿兩國に於て正式の手續に依り批准せらるべく批准書は成るべく速に新京に於て之を交換すべし

本協定は批准書交換の日より效力を生ずべし

本協定は日本文及漢文を以て各二通を作成す

日本文と漢文本文との間に解釋を異にしたるときは日本文に依り之を決す右證據として下名は各本國政府より正當の委任を受け本協定に記名調印するものなり

昭和八年三月二十六日即ち大同二年三月二十六日新京に於て之を作る

日本帝國特命全權大使 武藤信義 印

滿洲國外交部總長 謝介石 印

日滿通信會社 準備委員近く任命

十五日午前十時つゝがなく批准交換を了した日滿通信社はこれを以て兩國間の協定に關する一切の手續完了したので愈々本格的設置に着手する事になつて近く國務院閣議に於てこれが準備委員會の任命を見る筈である

長野縣市町村長 皇軍慰問團

長野縣三市長各町村長等十數名の滿洲派遣軍慰問團一行は十七日午後三時三十分ハルビンを經て來京同日午後四時三十分吉林に赴き一泊、十八日午後九時新京に引返し同十時發列車で奉天に向ふ豫定

經濟欄

海外經濟

▲銀塊及爲替

- 倫敦銀塊 一八片四分の一
- 同 遠期 一八片六分五
- 紐育銀塊 三二仙八分一
- 孟買銀塊 五六留比一六分五
- 米英爲替 三四弗八分五 四分三
- 米日爲替 二四弗 三仙
- 米支爲替 四四弗三七仙
- スチール株 四四弗二分一
- アナゴンダ株 一三弗八分三

▲綿花

- ●米綿 現物 八仙七〇
- 七月限 八仙五五
- 十月限 八仙八六
- 十二月限 八仙九八
- 一月限 九仙〇九
- 三月限 九仙二二
- 五月限 九仙二五
- ●印綿 ブローチ 二一九留比

▲上海票金

- 昨止 九八一五〇 …… 九八四五〇
- 高値 九八一七〇 …… 九八六〇〇
- 安値 九七二六〇 …… 九八六五〇
- 本寄 九八三五〇 …… 九八七五〇
- 步値 九八五〇〇 …… 九八六〇〇
- ベゝゴール 一六九比
- オームラ 一六八留比

▲大連金鈔票

- 現物 一〇四七〇〇 …… 一〇四九〇〇
- 近 遠 明
- 寄付 一〇四八〇〇
- 步値 一〇四八五〇 / 一〇四九〇〇 / 一〇四七五〇 / 一〇五〇五〇 / 一〇五一二九 / 一〇五三〇〇 / 一〇五三〇〇 / 一〇五二五〇 / 一一五三五〇 / 一〇五一〇〇 / 一〇五一〇〇 / 一〇五一五〇
- 引 止値 一〇五一〇〇
- 高値 一〇五一五〇
- 安値 一〇五〇〇〇
- 出來 九六六萬

▲大連上海向

- 九六・四五〇 / 九六・四七五 / 九六・四〇〇 / 九六・三五〇 / 九六・五五五 / 九六・一五〇

▲大連煙台向

- 九五・三五〇 / 九五・三七五 / 九六・二〇〇 / 九五・三五〇 / 九五・二〇〇

▲上海日本向

- 第一回 一〇〇丁ず …… 一〇〇・五〇〇
- 第二回 九八・七五〇 …… 一〇〇丁度
- 第三回 ……

▲上海倫敦向

- 賣値 一志二片二分一
- 買値 一志二片六分九

▲上海紐育向

- 賣値 三四弗八分七
- 買値 三五弗〇〇〇

▲阪神日米爲替

- 第一回 二四弗〇〇〇 …… 二四弗 一六分三
- 第二回 二四弗一六分三
- 第三回 二四弗四分一

▲阪神日英爲替

- 賣値 一志二片二分一
- 買値 一志二片六分一

▲哈爾賓特產

- ●大豆 六月限 八七〇〇 …… 八五〇〇
- 七月限 八七二五 …… 八六七〇
- 八月限 ……
- ●小麥 六月限 一三三〇 …… 一三三〇
- 七月限 一三三〇 …… 一三三五
- 八月限 一三四〇 …… 一三三五

▲カアカツタ麻袋

- 青麻袋 六留比〇〇
- 爲替 五留比四分一
- 爲替 八留比二分一

▲大連麻袋

- 現物 三八〇厘
- 九月限 三八二厘
- 十月限 三八四厘
- 出來高 一六万枚

新京市況

- 大豆 現物 一三二〇 出來高 四車
- 高粱 現物 一〇三〇 出來高 四車
- ▲錢鈔（現物）
- 鈔票對金票 一〇四七〇五
- 大洋對金票 九八〇三〇
- 國幣對金票 九八〇三〇
- 大洋對鈔票 九三四〇五

匪賊頭目仁義
惡運盡きて逮捕さる
歩兵銃二十挺彈丸三百も
城內憲兵分隊の殊勳

新京城內憲兵分隊では過般來洮陽縣一たいを荒した匪賊頭目仁義が最近城內に潜入第二段の

「活動」に入るべく準備中なるを探知、嚴探中であつたが十四日彼等の隱れ家を襲ひ大格鬪の末三八式歩兵銃二十挺彈丸三百發と共に逮捕した、仁義は[illegible]縣[illegible]道河で自衛團を組織活動中一昨年殿臣から襲擊をうけ團長金彈山及び部下三百と共に逃走洮陽縣城附近で馬賊に改編その後昨年七月下旬同家屯に沈玉良を襲擊したが沈は應戰で五六十名の自衛團員を率ゐてゐたので却つて大敗遂に金彈山は射殺され、その後代つて仁義が頭目となり漸次部下を集め掠奪暴行をほしいまゝにしてゐた然るに最近滿洲國側の警備嚴重なるところから犯跡をくらまし第二段の活動に入るべく逃れて新京に來り附近で馬車屋業を装ひ各所に

「出沒」してゐる處を城內憲兵分隊が探知遂に十四日早朝寢込みを襲ひ森曹長、片山軍曹小林、高尾、出口各上等兵の手で格鬪の末逮捕せられたもので現に隱れ家には三八式歩兵銃二十挺、彈丸三百發あり余罪多數ある見込みで嚴重取調べ中である

幹部候補生任官

新京署管內在留の幹部候補生中任官の發表されたものは左の如くである

豫備役歩兵科幹部候補生
滿鐵車掌　廣瀨製次
巡査　河岡定一
中央ホテル事務員　上山重介
仁和洋行店員　松原晃
滿洲國國務院官吏　宮口二郎
國際運輸金融係　花崎佐太郎
三浦善七
本間有三
軍經理部雇員　木村健之
元林洋行店員　蝦名博
柳澤茂一
柿崎文雄
任陸軍歩兵少尉（昭和八年三月三十一日附）

豫備役砲兵科幹部候補生
滿鐵地事工事係　廣瀨元義
保安區電線方　清水秀雄
吉林建設事務所　廣津藤一
滿洲國官吏　今吉均
任陸軍砲兵少尉（同右日附）

豫備役工兵科幹部候補生
松村組事務員　秦野悟
任榮商會事務員　鎌田義尚
任陸軍工兵少尉（同右日附）

以上何れも四月一日附正八位に敘せられ在鄉將校として終身其の官を保有し之に對する禮遇を享くるのである、從て有事の場合を考慮し軍裝品一と通り之を整備し外國に在留するの故を以て陸軍武官服役令第十四條に依り所要事項を陸軍大臣に申告することになつてゐる

新京ガイドブック近く發刊

新京市公署では觀光シーズン來と共に激增する新京を來訪者に對し新京を簡單に說明する適當なガイドブック提供の爲四六版五、六十頁「新京案內」を作り目下印刷中で近く發刊されるが右は新京の歷史、現狀を簡單に解說したもので、觀光客に贈呈する外實費で一般にも賣るものである

事變の滿鐵功勞者
三萬人を表彰
近く重役會で決定

〔大連十五日發電通〕滿鐵では曩に滿洲事變に關し、武裝せぬ勇士として軍隊の輸送其他凡ゆる方面の第一線に活躍し、軍隊に劣らぬ程の功績を擧げた日滿人社員二千三百十名を關東軍司令部に表彰方を申請したが、更に滿鐵としても、此等の功勞者以外の滿鐵自体功勞社員並にこを軍事關係功勞社員を何等かの方法により表彰してはとの議現はれ十五日午前九時より本社に功勞者調査委員會を開き協議の結果滿鐵としても、功勞社員を表彰することに委員會の意見一致し、重役會に提出することゝなつたが、重役會の承認を經ば具體的表彰方法を決定、直ちに詮衡に着手するが前記軍事關係功勞社員は勿論、滿鐵の表彰社員として包含されるので、表彰者總數は三萬人を突破する見込みである

三地方事務局
新設近く實現
滿洲國協和會陣容

滿洲國協和會ではさきに同會本來の使命にかへつて專ら協和精神の普及に努めることになつて以來、着々新陣容を整へ王道主義に基づく各種敎化工作の遂行

「計畫」を立てゝゐるが、これにほど吉林に新しく地方事務局を設置局長に輔忱氏副局長に三橋政明氏以下それ〴〵職員の顏觸れも決定し[illegible]なほ更に間島（延吉）熱河（承德）の兩方面にも同樣、地方事務局をすべく幹部以下目下人選近日正式に發表を見るべくこれで既設の奉天、ハルビン、チチハルの三地方事務局ともに全國主要地は全部設置を見ることゝなつた中央事務局ではこれで新

「陣容」全く整ふこととなるので各地地方事務局を督していよ〳〵第二期の運動に入るべく目下頻りに準備中である

海邊警察新隊員の教育
二十日より三週間

滿洲國海邊警察隊充實のため新に募集せる新隊員に對し、五月二十日より愈々中央警察學校に於て、警察に關する特別教育及滿洲國に對する正確なる智識を授ける事となつたが、三週間の教育終了後は直ちに海邊警察隊に配屬、實務に當らせる筈である

衆議院慰問團
今夜新京到着

衆議院滿洲慰問議員團々長熊谷直太氏以下十九名（內政友十名、民政五名、書記官、屬三名）は本日午後七時五十分着京するが一行の豫定は左の通りである

十六日　新京着
十七　十八日　滯在
十九日　午前八時卅分新京發吉林へ、同夜九時歸京滯在
二十日　午前八時四十分新京發ハルビンへ
廿一日　午後一時卅分ハルビン發チチハルへ
廿二日　チチハル發奉天へ

一行の顏觸れ

團長熊谷直太（政）理事寺田市正（政）同藤田志水（民）丸山浪彌（政）山下谷次（政）高橋壽太郎（國）後藤修（政）佐保畢雄（政）池田秀雄（民）沖島鎌三（政）紅露昭（政）坪山德彌（政）原淳一郎（民）中井川浩（民）山本莊一郎（政）豐田豐吉（民）以上衆議院議員十六氏のほか衆議院書記官西澤哲四郎同屬松平銑之助、同鈴木隆夫、の諸氏十九名で滿鐵審査役谷川善次郎氏が案內役を勤めてゐる

陣中美談（十）
沈着なる射手
機關銃隊の模範

歩兵第二十三聯隊機關銃隊
陸軍歩兵一等兵　高山始

第六師團の冷口附近敵陣地攻擊に方りて高田部隊に屬する志道部隊は四月十日正午稍前萬里の長城を突破して午後三時卅分逸早く建昌營西北側高地に進出し敵の退路を遮斷す其左第一線たる飯田歩佐の指揮する歩兵二小隊、機關銃一小隊は再三敵の夜襲を受けしが敵の接近を知りたる機關銃小隊長は直に射擊開始を命じたり鶴田武平上等兵の機關銃分隊は突如射擊不能に陷りしも當時三番銃手たりし高山一等兵は夜間にも拘らず極めて沈着默々として銃を分解點檢し擊茎折損なるを知り靜かに豫備品を以て取換へ再び射擊を開始し徒らに戰友をして故障なることを知らしめず從つて危急の場合志氣を沮喪せしめず遂に敵を擊退するを得たり此高山一等兵の沈着機敏なる動作は實に機關銃手の模範とするに足るものなり

沈着精確なる
機關銃射擊

歩兵第二十三聯隊機關銃隊
松田機關銃小隊

第六師團の冷口附近敵陣地攻擊に方りて高田部隊に屬する志道部隊は四月十日正午稍前萬里の長城を突破し午後三時三十分逸早く建昌營西北側高地に進出し敵の退路を遮斷したるが其右翼第一線たる黑岩中尉に協力すべき松田曹長の指揮する機關銃小隊は敗退する敵に猛射を加へ多大の損害を與へたり、此の目の上の瘤を除くべく約五百の敵は建昌營より攻擊し來り薄暮に於て迫擊砲の猛射に次いで夜襲し來りし爲第一線中隊は非常の危急に陷りしが松田機關銃小隊は此敵に對し[illegible]約五十發の猛射を加へ敵に多大の損害を與へ遂に其企圖を挫折せしめたるは實に協同精神の發露なり

中隊團結の力！

歩兵第二十三聯隊第七中隊

第六師團の冷口附近敵陣地攻擊に當りて高田部隊に屬する志道部隊は四月十日正午稍前萬里の長城を突破し午後三時三十分逸早く建昌營西北側高地に進出し敵の退路遮斷の擧に出づ

志道部隊の右翼最前線たる第七中隊は敗退する敵に猛射を加へ多大の損害を與へありしが敵は此の目の上の瘤を除かんと企圖し約五百名を建昌營より前進せしめたり此の敵は高地脚に近く薄暮を待ちて猛烈なる迫擊砲の掩護により手榴彈を投じつゝ我第一線に肉迫したるも中隊長代理黑岩中尉以下三十餘名は奮戰力鬪遂に之を擊退したり敵は再三夜襲を反復したるも中隊は機關銃小隊及曲射歩兵砲小隊の援助を受け遂に能く擊退するを得たり此戰鬪に於て中隊長小隊長は傷き下士官二名は戰死し三名は重傷を受けたり斯くの如き小數人員を以て多數の敵の幹部を失ふも尙敵を擊退し得たるは實に團結堅固なる中隊訓練の精華にして堅固なる團結は實に萬倍の味方を得るにも優るの力ありと謂ふを得べきなり

重傷を負ふも莞爾
果敢なる射擊

歩兵第四十五聯隊第九中隊
陸軍歩兵上等兵　八反丸千利

八反丸上等兵は小隊より剛膽にして三月二十二日聯隊蕭家營子南方高地攻擊に方りては第九中隊第一小隊輕機關銃手として參加し同[illegible]於て[illegible]稜線に達するや敵の十字火を受け負傷者續出し同上等兵も又左腦部貫通銃創を受けたるもフッと言ひしのみにして向射擊を續行せるも漸次氣息の迫るを見て戰鬪中止を命じたるに「何かさうつただけです」と答へて戰鬪中止を肯ぜず更に命令を以て同上等兵を稜線下に後退せしめたるに上半身鮮血に塗れ居たり眞に上等兵の如き斃れて後已むの精神充溢せるものと言ふべし（鹿兒島縣伊佐郡山野村大字小木原一四八八番地）

全滅に近き第二百十八師

服部部隊は撒河橋附近で河を渡つたが龍井關東南側高地一帶に陣地を三線に

「設備」し又その東方小關莊北方高地乾兒莊南方高地附近にも陣地を占領し、その東方撒河橋附近の敵陣地と相呼應した頑强なる抵抗を持續した敵陣地は悉く掩蓋を施し鐵條網を環らし且巧に僞裝したもので十四日早朝來右翼隊は砲兵の協力の下に數次の突擊を重ね遂に龍井關東南側高地を奪取し中央隊も遂次敵の據點を

「占領」して南溝東方高地に進出し右翼隊も又金丁峪の敵の陣地を奪取、撒河右岸の敵を東南方に壓迫し追擊前進に遷り十五日夕早くも三屯營南方接官廳敵陣地を放擊中である服部部隊に協力する爲松田部隊は北方に轉進し莫家屯附近より服部部隊の正面の敵の側背に向ひ攻擊前進中である服部部隊正面の敵は第二百十八師にして數日來の服部部隊の

「猛擊」により多大の損害を蒙つた今日前後に服部松田部隊の攻擊を受け殲滅の浮目にある

私鐵動章疑獄
十六日判決言渡

〔東京十五日發國通〕小川元鐵相外十六名にかゝる私鐵疑獄天岡元賞勳局總裁外四名にかゝる勳章疑獄、藤田元東京商工會議所會頭外四名にかゝる合同毛織事件の被告廿四名は昭和五年十一月以來東京地方裁判所刑事六部で審理中の所、愈々五月十六日午前十時判決言渡された

第七回彩票
頭彩三四四七九號
こんどは奉天榮商會

第七回水災賑濟彩票は本日抽籤、五彩までの當選番號左の如し

頭彩　三四四七九
二彩　二五九三四
三彩　二六九一五
四彩　〇二三六八　四八七〇八　〇〇三九五
五彩　〇三六七〇　〇七七七九　〇九九三七　一六八一二　二五八〇一　四二六七九　四九六九九

因に頭彩（甲）は奉天榮商會の取り次ぎ（乙）は錦縣大信利の取り次ぎである

鳳凰城娘々祭
運賃割引

二十日より二十三日まで鳳凰城鳳凰山にて開催される娘々廟例祭參拜者に對し、滿鐵では次の規定に基き運賃の割引をする事となつた

一、割引區間　連山關安東間各驛より鳳凰城驛行
二、割引期間　二十日より二十三日まで
三、通用期間　發賣の日より二十四日まで
四、本乘車券は三等に限り普通運賃の五割引
五、途中下車せる場合は前途無効復路乘車せざる場合と雖運賃の返還をなさず

有田外務次官辭任
後任は重光氏

〔東京十五日發國通〕有田外務次官後任は前駐支公使重光葵氏に決定した、十六日正式に發令の筈

有田次官
辭職の眞相

〔東京十五日發國通〕有田次官辭職の眞相は、聯盟脫退後外交局面に對する意見で外務省一部の强硬派と相容れず、自分の信念を貫徹し得ざるのみならず、省內に反有田の氣運も起りつゝあり、この儘在職するを苦痛とするに至つたものと見られてゐる外相はこの苦衷を察し、トルコ大使に推擧したが有田氏は此際外務省との關係を絕つて靜養する意を述べ、外相の推擧を拒絕したものだと云ふ

重光氏語る

〔東京十五日發國通〕外務次官に決定した重光葵氏は語る
この非常時外交を擔當して隻脚の自分が果してやつて行けるか如何か、この身体で何にもスローモーションでは甚だ意に任せぬ事も多いが、然し何時迄待つても片脚が兩脚になる譯でもないので、此際うんとやるつもりだ、一度無くした生命と思へばこれからの全生命を君國のために捧げ得る事は滿足だ

犬養氏の一周忌
盛大に施行さる

〔東京十五日發國通〕犬養木堂の一周忌法要は、十四日午後三時から上野寛永寺で行はれた、參列者は施主犬養健氏鈴木政友會總裁始め芳澤前外相夫妻令孫其他親族知己の外朝野の名士等二千名に達した畏き邊りでは犬養前首相一周忌法要執行に就き、生前憲政の爲に盡瘁したる功勞を思召され、十五日特に祭禮料金一封を下賜あらせられた

駐日獨逸大使
近く歸國

〔東京十五日發國通〕駐日ドイツ大使フォレッチ氏は本年停年に達したので外交界を引退近く歸國することゝなつたよつて來る二十五日午前十時宮中に參內、御暇乞ひのため兩陛下に謁見仰付けらるゝこととなつた

シベリア線
事故頻發

〔ハルビン十五日發國通〕十三日滿洲里に到着某邦人技師の語る處に依れば十日シベリア、クラスノヤルスクで先發の國際列車の顚覆事件があり滿洲到着は二十三時間遲延したさ
一般的にシベリア線の運行狀態は相變らず不良で事故頻發して居る

東鐵を橫切る
跨橋工事に着手

〔ハルビン十五日發國通〕滿洲國交通部は去る十日東鐵に通告したる時日に基づき本十五日愈々ハルビン新市街東方に於ける東鐵東部線上を橫切る拉濱線の跨橋の架設の工事に着手した

五千圓の拐帶犯人
新京署で逮捕
殘りは僅かに千圓

去る十三日京都七條警察署から五千圓の拐帶犯人が新京へ向け逃走した形跡があるから取押へ方を頼むとの通報に接した新京署司法係では倉田主任の指揮により犯人搜索中の處十五日午後三時頃市內三笠町四丁目遠東公寓第二號室止宿中の三十才前後の擧動不審の青年を原田刑事が發見し嚴重取調を行つた處眞犯人なる事を遂一自白した、右は原籍愛知縣海部郡佐座村大字稻葉加藤清成（二三）で京都驛前和漢文旅館で働いてゐる中去る一日家人のすきを窺き現金五千圓を窃取直に新京へ高飛びし八日新京前記場所へ止宿中であつたもので現金は既に途中大連、奉天等で遊興に費消し僅か千圓余を所持してゐた

ボ・バ兩國紛爭審理の
聯盟緊急理事會

〔ジュネーヴ十五日發國通〕ボリビヤ、パラグワイの國境問題を審議すべき聯盟緊急理事會は十五日午前十時四十八分より開會審議に入つた

嫩江の解氷で
黑江大增水

〔ハルビン十五日發國通〕五月に入つてより以來黑龍江の水量は頓に加へ更に嫩江の上流が解氷したので下流はグングン水量を增すばかりであるハルビン附近の江水は五月六日より漸次增水し五日の水位に比較すると十日現在では十糎の增水を見た

早大大勝
對法政野球
4—0

〔東京十四日發國通〕早大對法政野球戰は十四日午後二時四分から早大先攻で開始、結局四對〇で早大の勝、五時廿七分閉戰した

早大	200000200	4
法政	000000000	0

△バッテリー　早大　若原—三浦　法政　鶴澤　若林—[illegible]

キャピタルと
モナミ臨休

ダンスホールキャピタル、サロンモナミでは昨同して十六日西公園で野遊會主催したので同夜は雙方とも臨時休業するさうである

人事往來

▲城戶取締役社長（大每）一行十名十六日來京ヤマトホテルへ
▲向坊東亞勸業公司會長同上
▲日下內務局長（關東廳）十七日午前八時來京
▲松浦少將十六日午前九時南行
▲田中千吉氏（關東廳囑託）十六日午前八時來京

匿體

▲[illegible]十六日午後四時三十分發

ラヂオ

十七日（水曜日）
新京一一、〇五　講演國都新京の建設一、一、四〇　國都建設局總務處長　結城清太郎
奉天四、〇〇　レコード
銀行金銀相場商業就[illegible]
新京四、三〇　演藝
新京五、〇〇　講演協和會の活動と民衆　協和會　張紹宗
新京五、三〇　ニュース（滿洲語）
東京六、〇〇　東京中央放送局編輯
新京六、三〇　演藝又は講演
新京七、〇〇　ニュース（英語）
新京七、一〇　ニュース（露西亞語）
新京七、二〇　ニュース（朝鮮語）
新京七、三〇　ニュース氣象豫報、放送局編輯及プログラム豫告
新京八、〇〇　演藝
東京八、三〇　時報
東京八、三一　ニュース東京中央放送局編輯

けふの銀相場

鈔票　金票　[illegible]
大洋　金票　[illegible]
國幣　金票　[illegible]
大洋　鈔票　[illegible]

幕末異聞

愛慾火箭

作 瀧川駿　畫 村瀨洗舟

（五十六）

六角の獄舍（一）

『鍋燒！うどーん、うどーん鍋燒きー』

間の拔けた、眠さうな聲で、大きく怒鳴つて、七輪の下を自棄にばた〱煽ぐ音。二條の城に近い堀川の柳の蔭。先刻から通り雨を、そこらの家の軒下に避けて、霽れるのを待つて出て來た、お約束の屋臺店であつた。

十月の北時雨。降るかと思へば、やむかと思へば降り出す空模樣。その癖足の早さ。

『かう、爺つあん！』

突然に聲を掛けられて、うどん屋はきよろりとした。が、聲の主らしい人影は、森閑として夜の往來には見えなかつた。

『はてな？』

といふ顏をしたが、化かされたやうで、ちよつと無氣味になつたらしい、前よりも大きく、些か慄へを帶て、

『うどん鍋燒き。……うどーん』

精一杯の聲である。

と、また先刻の聲がくゝつと笑つて低い聲。

『野暮な聲を出しなさんな。近所迷惑な。大方、もう寢てゐるところだ』

『へい……』

團扇の手が休んで、

『何方で？……どこにおいでなんで？』

と、まだおつかな吃驚である。

『判らねえかい？』

は、一層氣味が惡い。

『驚かしちやいけません。こちとらはしがねえ商ひなので』

『冗談言つちやいけねえ。びく〱したのは手前の勝手だ。かう、こゝだよ』

成程、さう言はれて見ると、向うの土堤の岸に棒杭のやうにかゞんだ黑い人影があつた。人間と判つてしまへば、それで安心なやうだが、さて、また別な不安がある。この夜更けに、誰に隱れて、こんな所にかゞんでゐる男。どう考へても尋常者ぢやない。

『鍋燒きー』

と、また出る。すると、また、

『おい、いくら怒鳴つたつて、見渡したところ人通りはないやうだぜ』

『何だい？ お前さん、先刻から……』

老爺も、むッとしたらしい。

『俺か？』

相手は、あつさりと、斯う受けて、

『まあ、いゝ。人通りもないらしいから、そこへ出て行つて、顏を見せやう』

言ひながらむつくりと起ち上つて、往來の眞ん中へ出て來たのは、ちよつと遊び人といつた小粹な半纒姿の、きりッとした若い者。屋臺の側へ寄つて來て、

『怪しいもンぢやねえ』

斯う言ひながら、懷に呑んだ十手をちらりと見せた。

『あ、旦那衆で！』

『狸とでも思つたのか？ まあ一杯熱くしてくんねえ』

『へい、へい……御苦勞さまでございます』

『ヘッ、かうだ。いやにお世辭がよくなつたぜ』

やがて男は、熱いうどんにふう〱と息を吹き掛けて、啜り出した。

『おんや？』

と、男は喰ふのを止めてぢつと何かを見詰めた。それは、押小路の方角から濠端傳ひに來る人影を見とめたからだつた。

『武士だ！』

と呟いて、早口に、

『爺つあん、賴むぜ。當り前の客あしらひにしてゐてくんねえ。迷惑は掛けねえ。樣子がどうも彼奴らしいンだ！』

ぴた〱と雨後の道に雪駄の音をさせて、黑羽二重の着流しに覆面した人影、それは衛門與四郎が祇園の初島樓からの歸り道。ほろ醉ひを夜風にあてながら步いて來る所だつた。例の岡つ引らしい男も慣れたもので見ようともせず、うどんをすゝ

五月十七日　水曜　癸未　友引　滿　壁宿

●一白の人　人にならず自らにて奮闘するが安全爭論凶　乙と巳と庚が吉

●二黑の人　人事に携りて僞ひと失費を招く事ある日　丁と辛と丑が吉

●三碧の人　他人の世話苦勞多き日知られ振りが穩なれ　丙と子と癸が吉

●四綠の人　疎忽失策の生じ易き日商談及工事請負注意　甲と壬と癸が吉

●五黃の人　吉凶の別れ目急進は深く戒めて細心を要す　丁と辛と艮が吉

●六白の人　すと伸び尺と擴がる向上の日金談縁談亦吉　申と庚と寅が吉

●七赤の人　地盤固めに精力を集中すべし糊口の爭注意　申と辛と戌が吉

●八白の人　石を投じて水面に波紋を起すが如し病注意　丙と酉と亥が吉

●九紫の人　始めの順調に引き替へて終りの全からぬ日　乙と巳と丁が吉

新京日日新聞

心境の變化

理論と實際の差異に驚ろいた

□…再來滿のヤング博士 感慨無量 感想披瀝

昨年春リツトン調査團支那側アツセツサーたりしウオルターヤング博士はリツトン報告書後の滿洲を再認識の爲來滿、十四日新京に到着したが此は當時滿洲國側にとつて種々なる言動を爲したるため在滿各方面に不愉快極まる印象を殘して去つたものだがヤ氏は十五日朝ヤマトホテルで次の如く第二回來滿の感想と心境の變化を語つた

『不利』滿洲に於ける日本の行動は種々論稱され又各方面より滿洲國の開發は失敗に終るだらうと結論を下された樣だが、自分は新京に來て滿洲國の建設事業の餘りにも理論と實際の差異の大なるに驚かされた、昨日西公園を散歩したが綠の丘の彼方に壯大なる數個の建築工事を見、此等が總て新政府の廳舍であると聞き

『前回』の來滿當時と思ひ合せてうたた感慨無量のものがあつた、昨年の今頃ハルビンのモデルン。ホテルの屋上から松花江對岸にゼチラルツア（馬占山）の兵隊が襲來して民家が炎々と燃へるのを見た聯盟の決議があつて三ケ月其間世界は日本に對して一指をも染め得ない實は私は初め滿洲國と云ふ名前そのものが嫌ひだつた然し乍ら私の親しい友人日本人支那人それに私と同じ色の皮膚をした白人迄が皆滿洲國の名の下に快活に仕事を續けて居るのを見て

『私と』はいへども心境の變化の起らぬ筈はない、滿洲事變前から私は滿洲に於て最も注意して居たのは鐵道問題であるが、全滿の鐵道問題は近き將來に於て一切解決されるであらう、東鐵が滿洲國に於いて買收されるならば滿洲國の機構整備し支那語で云ふ所謂「滿龍點睛」である、私は新興の國都建設狀況を日滿各方面の援助によつて充分に視察することが出來た、云々

因にヤング博士はハルビン行き旅程を取りやめ本十五日午後四時三十分發列車で奉天に引き返へした

リツトン報告の或部分に反對

然し此際遠慮したい

（奉天十六日發國通）滿洲視察中のウオルター・ヤング博士は十五日午後十時半新京より奉天に歸來、大和ホテルに入つたが、國通記者は偶然にも列車中でヤング博士と會見した、博士は

先日貴通信は自分が滿洲國に對し何か偏見を持つてるかに報道されてゐたが、自分は滿洲國に對し何等惡意を持つてゐない、又先日の貴通信は自分との會見記事中に自分がインタービウとしてゞなく語つたことまで傳へてゐるので迷惑を感じてゐる次第だ今回の旅行は個人的旅行で國際聯盟其他の筋から依賴されたものでない

と辯解し、リツトン報告に對して次の如き極めて意味深長なことを語つた

自分はリツトン報告に就いては個人として何等責任を持つて居ない、リツトン調査團に對する自分の任務は單に專門家としてのものに過ぎない、故に自分としては該報告書の或部分に對して反對の意見を有するといふことも出來る、從つて自分は將來に於て自分の意見を表明するの權利を留保して居る、然し乍らこの際反對意見を表明する事は決して至當でないと思ふ、滿洲國政府に關しては、自分は純粹な學者として滿洲の新事態を何、偏見を持たずに研究する心算だ、これが今回來滿した目的である

東鐵ゼネスト實行は不可能

それに二つの理由

種々傳へられた東鐵の從業員總罷業は九十パーセント不可能なること明かとなつた、即ち確かなる筋よりの情報に依れば

第一の理由は滿洲國側に豫備從業員多數ありゼネストを斷行するも何等効果なきこと

第二の理由は現在東鐵蘇聯側にルレー管理局長と、クズチッオフ副理事長の二派あり、ルレー派は飽く迄總罷業を以て對峙すべしと強硬論を唱へるも大勢は蘇聯總領事と連絡を保ち日滿兩國と妥協すべしとの溫健說を唱へるクズチッオフ派の主張に傾き

加へて蘇聯商人並びに東鐵從業員等の大部も紛爭を厭ひ圓滿解決を希望してゐるので杞憂されたゼネスト說は今の處問題にならざる形勢となつた

わが空軍の大活躍

豐潤を爆擊し 潰滅的打擊を與ふ

（天津十六日發國通）我軍飛行機○機は十五日朝豐潤の敵を爆擊潰滅的打擊を與へた敵の死傷者多數

唐山大混亂

（天津十五日發國通）支那軍は唐山に退却集結中だつたが、十五日朝我飛行機は唐山上空に飛來し、敵の集團に大爆擊を加へたもの〻如く唐山は目下大混亂に陷つてゐる

敵軍の總退却

開灤炭鑛は平靜

（天津十六日發國通）唐山の敵は十五日午後灤臺方面及唐山西南方面に總退却を開始したが、開灤炭鑛並びに啓新セメント工場は平常通り、作業を續けて居り、至極平靜である

窪里に退却

（天津十六日發國通）我軍の猛擊に北寧鐵路正面の敵は十五日午前古冶を放棄窪里に退却した

唐山開平方面砲聲いんく

（天津十六日發國通）檢津大道を猛進敵軍を追擊中の我軍は、榛子鎭の敵に猛擊を加へ午後四時敵軍と激戰中、唐山開平方面に砲聲殷々と響き渡つて居る

敵乍ら天晴れ 商震軍督戰隊

最後迄頑強に抵抗

（大五里十五日發國通宮崎、大橋特派員發）高田部隊は十三日大五里出發後實頭山に主力を集中したが、敵は正面に精銳四千餘を集め決死の色を表はして對陣、死者狂ひの猛射を浴せ來る爲、

『味方』の死傷を少くする爲、志道支隊長は上村○隊長をして敵の右翼に迂回せしめ正に其事成らんとしたが惜しくも敵彈上村○隊長の頭部を打貫き、午後四時三十分豪勇無比の勇姿も再び蘇らず、遂に返らぬ人となつた、一方高田部隊は灤河渡河以來息をもつかず進擊したので砲彈、銃彈殆ど缺乏し只對陣の外なく、大行李の到着を

『只管』待つのみとなつた殊に敵は商震軍精銳督戰隊を主力にして、其頑強なさも塹壕から引く事をせず商震軍の督戰隊の如きは其體面を重じて最後の一兵となるまで抵抗を試み、其猛勇さには

『鎭四』の雄も舌をまき敵ながら天晴れの武者振りである、而して敵の作戰は指揮者の命に依り、退却する時でも悠々屍體を收容し乍ら普通の速度で後退する等、從來の支那兵と全然異る訓練と勇敢さがある、斯くて我大行李は午後五時過ぎ主力に追付き彈丸給養の補給成り夕刻より夜襲を行ふ事三回遂にさしも頑強な敵も十四日拂曉より後退を開始我軍は時を移さず主力を以て追擊した

北平人心動搖

いよく極度に達す

（北平十六日發國通）當地上空に日本の飛行機が現はれてから同時危險に叫ばれるかさ昨今市民は續々避難しつゝあり北寧、平漢兩鐵路の停車場は彼等の荷物を以て埋められた公安局長は事態に鑑み特に布告を發して市民が謠言に迷はぬやう又飛行機襲來の場合一ケ所に集合せぬやう戒めた

大恐慌來の北平軍事分會

退路の防備に努む

（天津十五日發國通）日軍の灤西進出に北平軍事分會は大恐慌を來して居るが、十三日同分會丁參謀外數名は衞兵五六十名を從へ急遽天津に來り于學忠と

一、支那軍敗退の場合の天津防備作戰

二、天津を拋棄、津浦線に退却の場合の津浦沿線の防備作戰

に就て重要打合せをなす所あり、十四日丁參謀一行は津浦線防備に關する實地視察のため同方面に急行した

北支辦事處北平に移す

（南京十六日發國通）在新鄉中央執行委員會北支辦事處主席張繼は河北方面の狀勢を聞き事務取扱の便宜上同辦事處を北平に移すことに決した旨中央國民黨本部に電報を寄せた職員は目下其の準備中

銅子兒下落で

錢莊大打擊を蒙る

（天津十六日發國通）平津一帶に於ける流通々貨銅子兒は平津地方の動搖の爲下落の傾向にあり、一弗對四百枚が四百八十枚に下落昨日は五百枚にまで下落した、これが爲錢莊は大打擊を蒙り、下層階級市民の生活は極度に窮迫して來た

岡本參謀副長赴連

（大津十六日發國通）新開嶺石匣鎭等の前線視察を了へた岡村關東軍參謀副長は十六日より當地に開催される鐵道會議列席の爲め伊藤副官を隨へ十五日午後七時五十分來連した

輸入組合總會

十八日太子堂で

新京輸入組合第五回定時組合員總會は來る十八日午後一時より太子堂に於て、組合員百十名列席の上開催されるが、附議事項左の如し

一、昭和七年度中新規加入者及び中途脫退者承認の件

二、昭和七年度通常會計及び別途會計の貸借對照表、財產目錄、損益計算書承認の件

三、組合定款改正の件 第三十八條第一項中「貸付利息の二十五分の三」とあるを「貸付利息中日步金三厘」と改む

四、幹事二人、評議員十四名任期滿了に付改選の件

林滿鐵總裁が極秘朝鮮入り

時節柄人目を牽く

（安東發）十三日早朝大連を出發した林滿鐵總裁は柳樹碑に同日午後十時十分過安東南下したが右一行は京城を經て北鮮に赴き問題の羅南、清津、雄基三港委任經營に關する內查を爲すもので去る十一日終了した今井田政務總監の北鮮視察と結びつけ或は北鮮鐵道の委任經營問題と相俟つて少なからぬ斯界の耳目をひいてゐると共に之が成行重大視されてゐる

全滿各地の水上警察局を

警務司の下に統制

鴨綠江、松花江、黑龍江、遼河等大河川を有する滿洲國は水上警察關係として、安東水上警察局、松花江下遊上遊兩水上警察局、黑河水上公安局遼河水上警察局を設けて水上治安の維持に當つてゐるが、これ等多數の水上警察が分立して居る結果、統制上少からず不便なので、今回民政部警務司に於ては、これ等に大改革を加へ、安東、營口、ハルビン、黑河等の主要地を統一安全な統制下に置く事になつた

衆議院滿洲視察團日程

皇軍將兵慰問を兼ね、滿洲視察の途に在る衆議員滿洲視察團一行は十六日午後七時五十分○號で來京、名古屋旅館、梅屋旅館に分宿の筈であるが、滯京中の一行の豫定は左の如くである

十七日 午前中南嶺、寬城子の戰跡視察 正午大和ホテルに於る栗原總領事主催の歡迎午餐會に臨む

十八日 午前中執政に會見、正午大和ホテルで開かれる滿洲國側の招待に臨み、同午後八時司令官を訪問、皇軍將士に慰問の言葉を述べ夜官邸に於る武藤元帥主催の晚餐會に臨む

十九日 吉林に向ひ戰跡視察の爲新京に引返し廿日午前八時四十分發ハルビンに向ふ

最新式の ぶゑのす丸が大連航路へ

氣の利いた特別三等室 廿一日神戶出帆

南米航路ぶゑのすあいれす丸は臨時就航に就て神戶出帆商船大連航路に南米航路船ぶゑのすあいれす丸が臨時就航する事になつたが同船は我南米移住民の輸送の爲め特に

『建造』されたもので最新式を誇るものと云つても良い、總屯數九千六百二十五屯全長四百六十一呎速力十七哩、昭和年五月三日三菱長崎造船所で竣工した純國產船である、船內の設備は西洋模倣より脫して新に日本獨自の境地を拓いた所に特色を持ち客室は一等と特三等三等の三種で一等室は定員六十人特別三等室は上甲板と中甲板に設けられて居る定員一五四名上甲板には五つの

『客室』と百四十人が會食し得る大食堂があり診察室理髮室も此甲板にある

支那に重點の

我對支外交陣容整ふ

（東京十六日發國通）內田外相が重光氏の起用は脫退後の外交の重心を支那問題に置かんとするの意向と見られる、即ち支那側が反省せず現狀維持をなせば日支關係の不安增し我國としては遠からず日支關係の一新を計るため積極的に働きかける必要があるので曩には小幡大使を外相顧問の地位に就け亞細亞局の人員を增加し、對支外交に備へたが今又重光氏を起用した譯で、他に白鳥氏の強硬派に小幡、重光兩氏參加して內田外交の對支陣容を整備した譯である

有田次官の隱退を機會に

外務省大異動か

（東京十六日發國通）內田外相はトルコ大使に有田八郎氏を推擧したが、有田氏は之を受けず、依願免本官外交界より離れたので武者小路氏が結局就任することゝなり、之を機會に外務省の大異動を見るに至らんと豫想されてゐる

右傾團体代表らが園公に決議文提出

（東京十六日發國通）五、一五事件一周年の昨十五日午後一時血盟社會黨、大日本生產黨、神武會等右傾團体代表者陶山德太郎氏等が坐漁莊に園公を訪問し、決議文を提出した

穆元植氏

奉天省公署參事官穆元植氏は本年一月からその風邪で病床に伏してゐたが、衰弱の結果、十五日午前十時遂に逝去した、享年五十二歳

氏の生涯は波瀾に富み、幾度か逆境に立つたが、滿洲事件後奉天省政府成立するや、藏省長の片腕として立働き政務の機構に參與し、激務と戰ひ省務の確立に多大の貢獻をなした人である、氏は元來清廉潔白で知人の困窮を見ては私財を投じ家には全く蓄財なき狀態で氏の逝去は各方面から惜まれてゐる

榮總裁母堂追悼會

先日逝去せる中央銀行總裁榮厚氏母堂の追悼會が來る十八、十九兩日に亘り般若寺に於て執行される

滿洲國の娘々祭に就て（五）

奧村義信

さにはともあれ、大石橋の娘々樣は現に福壽の女神、治眼の女神、授兒の女神三体をお祭りして居ます、茲に皆樣と一緒に知つて戴き度い事は外でもありません

淸の太宗皇帝のとき（天聰年間）勅命を以て同廟を重修し淸室發祥地の守護神として、盛大な式典をあげた事で御座います、それにつけ本年から滿洲國政府が積極的に廟會主義の施政方針を採つたことは、三千萬民衆にとり非常に有意義な事と思はれてなりません其他同じ娘々樣にも澤山あります、例へば催生、送生、天莊、天仙、子孫、眼光、痘疹娘々等でありますが、之等の娘々樣は何れもみな其御神格から申せば結局「泰山娘々」樣の御配下になつてしまうのであります

さうしますと、一体何時頃から泰山が支那一般民衆の信仰の的となり、泰山府君とか泰山娘々とか、或は東嶽大帝であるとか、乃至は又天齊廟……遠い遠い此の全滿の各地へも及んで來まして、かく盛大に分祀せらる、樣になりましたかを……調査研究します事は、實は世界に燦然として居ます東洋文化史の上から展望して見ましても、非常に興味あることゝ思ひますが、へつて又滿洲國三千萬民衆の大部分を占めてゐます一般民衆の間に一現に抱かれてゐます現實的な、通俗信仰の上に現はれてゐます娘々思想の再檢討を致します事も、換言しますと現在滿洲國が理想として居ます王道思想と一体どんな對立關係にあるのだらうかと云ふ事です、其相關關係と其思想的對立關係乃至其圓融化の研究は、民意を天序とする大同主義の立場から展望しましても、乃至は思想的並びに學的方面から之を視察しましても、しつかり此際其間の消息を私共は把握しなければなりません

滿洲に於る文化史上に取り殘されてゐる最も大きい「明日への課題」であることを本日特に提唱させて戴いて、此盛大な而も和やかな「滿洲娘々祭り」への、せめてもの御祝ひの言葉に代へたいと存じます

滿洲の娘々に關する文獻は私の知つてゐる範圍に於て、約五十一種類程ありますが、就中本年五月關東軍特務部指令特設滿洲經濟事情案內所から出版された在新京の、宮城調明先生著「滿洲國娘々巡禮記」は極めて幾多の群書中も價ある文獻かと存じます、爰に御紹介申上げます

安東の競馬

（安東發）朝鮮脚戲大會の影響を受け相當人出のあつた安東競馬第五日は曇つたり晴れ間たりでファンを惱ましたが東午後五時過ぎに至つてほつりほつり降り出した中に、熱心な連中は最後まで頑張りレースも終始高配を續けたが、朝鮮人の脚戲に取られた故か割に不成績であつた、馬券總賣上一萬一千九百八十五圓福券三千九百三十九圓入場人員五千三百九十三名である、尙ほ第六日（十四日日曜）は雨天の爲め順延となつた

天氣と氣溫

十六日の氣溫最高二十七度最低十三度三、十七日天氣西北の風雨模樣

室町校創立廿五周年記念

けふ盛大に体育會

室町小學校では十七日が創立廿五周年記念に相當するが翌十八日が秩父宮殿下御成婚記念になるので創立記念を一日繰けて十八日午前八時から兩方を兼ねた記念体育會を開催し同校々庭で体操ランニング、遊戲等を催すから父兄は振つて參觀せられたいと

けふ午前一時
記事解禁

白系露人團体の反日滿の策動暴露
某々國秘密諜報機關と連絡
關係者遂に檢擧

滿洲事變勃發以來張學良、蔣介石の一派は彼等の所謂失地恢復運動のため滿洲國の內情偵知に汲々としてゐたが、在滿白系露人を利用して反日滿情報資料の

『蒐集』及對外宣傳に當らしめつゝあるの疑が最近に至つて濃厚となつたから首都警察廳外事科に於て嚴密探査の歩を進めつゝあつた折柄、二月二十七日天津居住「ミハイロフ」なるもの來京し附屬地旅館に投宿、新京城內居住「ミハイル、プーキン」に對し極東白系露人巨頭「ホルワツト」よりの書翰を交付せる事が判明したので三月五日「プーキン」の家宅搜査を爲し關係書類を押收した、之に依ると反日滿の色彩頗る

『濃厚』なるものがあつたので大連、奉天、新京、哈市、齊々哈爾に於ても關係白系露人（容疑者）の一齊檢擧を行つた、前記「プーキン」「ミハイロフ」以外は取調の結果證據不分の故を以て直に之を釋放し前記二名につき二ケ月に亘り江川外事科長指揮の下に須藤、井上警佐、中牟田巡官等に依り嚴重取調を敢行し

茲に本事件の全貌を詳知するに至つた即ち押收書類及彼等の告白に依ると「ホルワツト」及「キヂエリクス」を

『中心』とする白系露人團体は兩巨頭の命を受け滿洲國の內情日本軍の行動を內偵し、然も其の情報たるや日滿に不利なる如く捏造、又は誇大に作製し日滿の國際的地位を不利ならしめ、又滿洲國の建設を妨害し日本軍の行動を中傷した事か確實である、殊に「ホルワツト」及「デチエリクス」等は某々國秘密諜報機關と連絡せるのみならす、其の情報は某國在住白系露人巨頭の手を經て『ジユネブ』國際聯盟に報告せられ日滿の

『國際』的立場を著しく不利ならしめ日滿の軍事行動、滿洲國の建設を誇大に中傷して居る、又白系露人機關紙「ウエストニク」により一般宣傳を行ひ且白系露人間に於ける反日滿の氣勢を煽る等極力反日滿策動をして居たものである

であるが將來斯かる

『不逞』の徒を再び出さざる樣何人も戒心すると共に今後益々滿洲國家の爲めに協力せら

れん事を切に望んで止まぬ次第である

一般白系露人に氣の毒に思ふ
長尾警務司長談

今回の事件は建國草創の滿洲國にとつて實に重大なる事件であつた、幸にして其の全貌を明にし今後再び斯かる陰謀の企圖を不可能ならしめたことは滿洲國の爲め實に

『欣快』に堪へぬ次第である、此の實績を收め得た所以のものは關係機關の數ケ月に亘る不眠不休の活動に依るもので私は此等各機關に對し深い感謝の意を表するものである、翻つて今回の事件を考察する時本事件は全く一部不逞分子の策謀に過ぎないのであるが滿洲國は其の宣言に於て明かにした如く在滿住民は民族の如何に拘はらず均しく滿洲國の王道樂土の恩澤に浴するものであり、白系露國人に對しても當局は從來此の

『宣言』に忠實であつた如く今後も此の方針は不變である、又在滿白系露國人の大部分は此の事實を深く認識し共に王道樂土の建設に盡瘁して來たのであるが、今回の事件に依つて一般白系露國人の蒙りたる迷惑は勿論の事彼等の如上心理に思ひを致す時彼等と共に深くこれを遺憾とし、一般白系露國人に對し一掬の淚を禁し得ないものである、然し滿洲國は此種徒輩に對しては今後と雖假借なく取締る方針

探金調查隊隨行醫師
一般から募集

十五日早朝新京を出發した探金調查隊一行に隨行する醫師一名を目下滿鐵新京地方事務所經濟調查會で募集してゐるが、右は日本人、朝鮮人の何れでも可とし、成るべく急決定の上現地に派遣する意向である、右醫師の俸給は本俸百圓以上百五十圓手當はその五割であると

中等學校の補助教科書
各科とも本年度中に決定
來年度から使ふ

南滿洲中等學校研究會は既報の如く十四日大連商業學校に於て開催、新京商業學校よりは白石今井の兩

『教諭』は南部教諭中學校より出席したが本研究會の協議會の目的は中等學校に於ける副讀本の編纂で從來小學校では文部省制定教科書以外別に滿洲の現實に即して滿洲ローカルカラーを取入れた補助教科書を使用して特に滿洲に對する認識を深める事に努めてゐるがそれを延長して中等學校にもその補助教科書を編纂使用せしめ樣といふのでその

『科目』は地理、歷史、理科、公民等で遲くとも本年度中に全部の決定を終り來年度から直にこれを使用する計劃を立てゝゐる

しニ月十二日には日曜日なるにも拘らず全閣僚は互に其所在を知らしめ置くことゝし萬一を警戒したり
マクドナルド首相とサイモン外相はゼネバ軍縮會議を救はん爲出發したるも今や軍縮を云々する時機に非ずと認しマツク首相は伊太利にて獨首相ヒツトラー氏及伊首相ムツソリニー氏と會見し

『時局』救濟策を討議したりと云ふ進んで歐洲の時局を一瞥する時は獨逸の國粹會社黨突擊隊はベルサイユ平和條約第四十三條所定の非武裝地帶たるライン左岸に侵入しキールの舊要塞を占據したるを以て佛國の反抗を惹起する等獨佛國境一帶は今方に戒嚴中に在り又佛國は獨伊の同盟的氣分濃厚なるを見て強く之を頭痛に病み居れり、就中墺國に於てはハプスブルク家復活の可能性あり

『於茲』乎獨墺伊三國の危險性は極めて濃厚なるもの在り墺獨は今後大戰の中心地たるべしと目せられ獨伊互に之に秋波を送り居れり伊は佛の軍備を氣遣ひ全力を盡して武器彈藥の製造に熱中しファシストの好戰的思想を沸かしつゝあり觀よ今日獨逸ヒツトラー內閣の樹立を一轉機として伊、獨、墺のファツショ化は西佛蘭西との衝突を大にし東蘇聯と敵對して國際的大問題を惹起せんとす、之に對し吾人は如何なる

『步調』を取るべきか、曰く大亞細亞主義を取り過去の半島性を揚棄せよ、過去の矛盾點を改正せよ、過去の思想を一掃せよ方向を轉換して新らしき道を踏め大亞細亞攻守同盟を締結して亞細亞民族協和の大旗幟の下に集合せよ、茲に本會は左記標語を頒布し以て我朝鮮人同胞の覺醒を喚起せんと欲す

標語

一、良民を苦しむる唐聚五殘黨を清算せよ
二、骨肉相爭ふ國民府雜黨を清算せよ
三、認識錯覺の共產分子を清算せよ

昭和八年五月一日
通化朝鮮人青年會

在滿朝鮮人同胞に覺醒運動起る
過去を精算、大亞細亞主義へ
各地に標語を頒布

從來滿洲に於ける朝鮮人は思想の統一なく相互の爭鬪激しき上部會に於ては不正品の密賣や詐欺的行爲をなすもの多く奧地に於ては不良分子等が良民を苦しめつゝありて

『一般』に不評であつたが滿洲國成立後各地有志の朝鮮青年は世界の大勢と朝鮮人の立場を闡明した在滿同胞の覺醒は我等の青年の責任であると云ふ覺悟で先に新京を始め各地に於て青年會を組織し

一、同胞相互の融和を圖り自力甦生に努力せよ
二、滿洲國樂土建設に協力せよ
三、亞細亞民族協和の大旗幟の下に集合せよ
四、骨肉相爭ひ、良民を苦しむる不良分子を清算せよ

との標語の下に各地青年會が聯合して一大覺醒運動を起しつゝあるが最近東邊道奧地の

『通化』朝鮮人青年會に於ても左記の譯文の宣傳ビラを全滿各地に郵送頒布し一大運動を起すに到り其の成行は一般の注目を引いて居る

東邊道通化青年會の宣言書

最近の世界の大勢と吾人の前途　滿洲問題によりて生じたる國際聯盟の正体暴露とヒツトラーの極端なる帝國主義的政策に對する佛國の反感、軍縮會議の不成功等今日の國際間に發生せる問題は一として

『國際』政局に不安を及ぼさざるものなし、殊に方今歐洲政局を包む低氣壓は將に暴風雨襲來の前兆に非ずして何ぞ英國政府も極度に神經を銳敏にしてゐるので

乘客の混雜と共に事故も殖ゐる
近く標語を一般から募集し
防止に努める新京驛

向暖と共に日増に殖へる旅行團視察團の入來により新京驛は列車發着毎に非常な大

『混雜』を來してゐるが、列車の發車到着の際出迎人見送人がプラツトホームの白線外に出る者が多くこの爲列車に觸れ事故を起す者が續出し五月に入つてからでも既に微傷ではあるが廿名の擦過傷者を出してゐる之に對し新京驛では極力事故の防止につとめ旅客の安全なる輸送に萬全を期してゐるがその一方法として近く事故防止の標語を廣く

『一般』から募集することゝなつた、なほ滿鐵ではプラツトホーム白線外に絶對に出ない樣希望してゐる

病室外の各室を開放して患者を收容
傳染病發生期を目睫に控へ
新京醫院窮余の策

事變前に較べて入院患者約二倍、外來約三倍といふ恐しい多人數が詰めかけて押すな〳〵の混雜を來してゐる滿鐵新京醫院では外來は兎もかく入院者の處置には大困りであるが殊に今後夏季に向ふにしたがひ更に人口の激增とともに恐るべき傳染病の發生期に入るので

『萬一』の場合を考慮して當局者は目下四苦八苦してこれが對策、窮しきつてゐる始末でこれが緩和方法として第一病棟の新設に着手し一方根本的對策として新たに傳染病院を新設すべく既に敷地も決定しいづれも本年中に竣工されるはずであるが、これらはいづれも早急の間に合はすために當面の應急處置として塚本院長以下各主腦部において種々凝議の結果、今度いよ〳〵各醫長室醫員室、圖書室その他を開放して病室に當てることとし近くそれ〳〵院內の大

『改造』に着手することになつた、醫長室醫員室はもとく各醫長、各醫員の研究、調査用されてゐたもので、それらの人々に取つては大きな打擊であるがこれも非常時局に際しては止むを得ぬことゝして開放されるに至つたもので、これで新たに二十二、三名の患者が收容出來るはずで、なほ傳染病增發の場合は從事員の食堂も提供しやうといふ覺悟を決めてゐるが、何にしろ患者がずん〳〵殖えてゆくに拘らずこれを收容するに

『病室』がなく、なほ夏季の傳染病發生期を控へて當局者の窮し方は並大抵ではなく見るも氣の毒なくらひである

敦圖線の開通事務所もお引つ越し
本社德永記者試乘

新京和泉町にあつた滿鐵吉林建設事務所は敦圖線開通に伴ひ十六日午前九時新京發臨時列車で河邊建設事務所々長以下百二十名の所員は朝鮮咸南北道郵便局所在地は朝鮮咸南北道郵便局管內である、なほ本社德永記者は敦圖線開通初乘をする爲同列車で敦化に向つた（通稱灰溪村）移轉した、右

『お嫁の口はありませんか』
安東滿鐵社員會支部で結婚媒介所開設

（安東發）粹を買つて出た安東滿鐵社員會支部では「お嫁の口はありませんかア」と近く結婚媒介所の

『新札』を掲げ樣としてゐる、未婚男女の如何に多きことよ、そして又お互の配偶者選擇にどれ程骨折ることであらうかと心配してゐた社員會だ、これから月下氷人となつて甘い、そして幸福なスイトホームを與へんとしてゐる、未婚の男女よ喜べ！と云ひたい位、この所長さんは社員會內の相談部長さんのきなたかでなると云ふことだ、事務所を社員會舍內に置いて各方面からの嫁入婿取りの

『申込』みに應じやうと云ふのだ、今までは惱みぬいたオールドミス乃至獨身社員連中の惱みは茲に於て完全に一掃されやうがまあ待つてゐらつしやい今暫くで看板が揚げられると

軍國讀本（十一）
◇……海軍編……◇
大砲の威力
一發の彈量二百七十貫

『現今』我海軍に採用されてゐる大砲は、戰艦を例として申上るならば、主砲四十糎（十六吋）副砲十四糎（五吋五）同八糎高角砲等であつて主砲は云ふ迄もなく主戰用として副砲十四糎砲は小艦艇驅逐用として、高角砲は航空機射擊用として裝備されてゐる物である、此外にも三十六糎、二〇糎、十五糎、十二糎、八糎、糎六、五糎等と云ふ各種

『砲口』徑の異つた大砲があつて、それ等はそれ〳〵の艦船の大小、使命の差異に從つてそれ〳〵適當に裝備される、四十糎砲の彈丸は一個約二百七十貫もあつて此奴が唸りを立てゝ、三萬米（七里半）も打つ飛ぶのだから大したものだ、然してその彈道の高さ一萬八千二百尺、富士山の頂きより未だ六千尺も上を飛んで行く譯である。

『一發』の發射に要する價格はザッと四千圓と聞いては迂闊に戰爭も出來ないが更に此奴を射出する砲身の重量三萬貫と聞いては何うしてそんな大きな物を擬つも積んで艦が海に浮いてゐるかを疑ひなくなるだらう、此處で一寸話は違ふが我新銳艦陸奧の積載力に就いて申上やう、陸奧は排水量三萬三千八百噸、人間一人當り十三貫として二千三百人を乘せて僅かに一吋水深を深めるに過ぎない

『大砲』を發射する際火藥に點火する方法は打擊と電氣とに依るが、彈丸が艦に命中すると後方の信管が炸藥に點火し、瓦斯となつて膨脹其壓力は遂に彈丸と破裂し、「威力を逞うするものである。」四十糎砲の射程が三萬メートル、約七里半である事は前にも述べたが、是に要する時間は僅かに七秒だから若し間違つて此奴を眞正面に喰つた艦船があつたらその砲聲は三途の川邊りへ行つてから初めて聞かれる譯だ

（圖は主力艦の四十糎砲猛射）

かあいゝ人形使節
西將軍の令孃
ちう子さん來滿

（東京十六日發國通）日滿親善の可愛い人形使節に女學校を代表して西ちう子さん（十七）が擇ばれた、ちう子さんは成城女學校の四年生で昨年四月から熱河討伐の部隊長として奮戰した西中將の三番目の令孃である、出發は松平敏子夫人等と共に五月二十七日で十五日お母さんの御許を得たちう子さんはお父さんが日滿の爲めに活躍して居る地に行かれると云ふので大喜びである

城內料理店組合從業員慰安野遊會

新京城內料理店組合では十八日正午から西公園內海軍碑前で同組合從業員慰安野遊會を催し一日の歡樂を味ふと

ダンサーも出場
モナミの運動會

キヤピタルダンスホールサロンモナミでは絶好のスポーツ日和に惠まれた十六日午前十一時から若葉もえ出る西公園で合同運動會を催しダンサ、女給連の活潑な演技は競馬毎に起る拍手と聲援のど叉で四隣を壓し和氣あい〳〵裡に打ちくつろいだ一日を過した

精養軒の家族野遊會

東一條通カフエー精養軒では十七日正午から西公園で家族野遊會を催し一日の慰安を行ふと

端午の節句に孝子、烈婦を表彰

來る五月二十八日は舊端午の節句に當るので、同日滿洲國では孝子烈婦、節婦、貞婦合計六十二名に表彰狀及び記念品を授與することゝなり、來る二十日午後三時文敎部總長室に於て各部關係者參集の上、種々具体的協議をすることゝなつた、

孝子十四名、節婦二十九名
烈婦二名、貞婦十七名

×灯の街×

「女給さんは氏子でない」と

盛裝美々しく今日のお祭りを樂しみに昨夜をマンジりとも寢なかつた〇〇カフエーの女給さんの一隊が自動車三台を連ねてかねてお願をかけてあるお宮さんの大祭だとお神詣りを「コラツ」の一聲で逐ひ返した無粹なお巡さん……、神樣怒つて曰く「交通整理に賴んだが俺は氏子の探定は皆祭へ賴んだ覺へはないだ、と、サモアリナン昔からお祭りは子供や娘のものと知らんかエヘヘ……

趣味と家庭

晩春から初夏には便秘になり勝
その簡單な療法

便秘は習慣による事が多いのでありますですから毎朝必ず便所に入つて、多少に拘らず便通の習慣をつくる事が必要であります。

朝起きてすぐコツプに一杯の食鹽水を飲むか、牛乳を飲むかする事もよいのでありますす濫りに下劑を用ふる事はよろしくありません

床を離れる前に腹部を臍から始めて大きくのの字を書くつもりで兩手の指頭で壓してゆき、更に腰骨の兩側を揉み二三十分間繰返してをると大抵便意を催すものであります

用事があるからとて我慢することは最もよろしくありません、幾日もないときは、ヒマシ油稍多量を冷たい番茶に浮べて飲むと效果があります

家庭で出來る簡單な湯のし

家庭で簡單に湯のしをするには混爐にお釜か御飯蒸のやうなものをかけ、湯をなるべく多くして沸騰させ、勢よくあがる湯氣に布をあてるのです。

その仕方はまづ導芯の棒のやうなものに、一定の布幅をきめて印をつけておき、湯のしをする布をその棒と一緒に持つて、棒の印のところまで、布幅を引きのばしながら湯氣をあてるのです。このとき一人よりはなるべく二人で引張りながらやる方が具合よくできます。

湯氣が弱いと思ふ際に皺がのびませんから、火力を出來る丈け强くしておかなくてはなりません。また小衿やネクタイの樣な小さなものは、火鉢の鐵瓶を利用しても結構です。

海の外から

□印紙大の書籍六千部蒐集　米國マサチユセツツ州立大學在學中の一米人は豫て印紙大の小冊子を蒐集中の所此の程六千冊に達したが、新刊物のクーリツヂ傳リンカーン傳フーヴアー傳、及びルーズヴエルトの大統領立候補宣言等が異彩を放つてゐる。

□タンク式貨物自動車　一英人が考案したタンク式貨物自動車は降雨、盗難、塵埃等の被害から完全に免かれる特點があり、近く各郵便局が之を採用するさうだ、

□室内光線の量を測る器械　英國の某建築家は、室内に入る太陽光線の分量を測る器械を發明、温度計から思ひ付いたもので水銀柱の上下に依つて光線量を測定するもの。

博多ニワカ
十七日夜から

長春座は十七八の兩夜上原演藝部が博多二輪加を上演する一行は蓄音器やラジオでお馴染の博多淡海の大一座であるさいふから觀客のアゴをはづさすやうなおもしろいところを見せるであらう、入場料特等一圓三十錢、一等一圓、軍人學生五十錢、小人二十錢

因に兩夜の藝題は、

初日は笑劇盗人一幕、社會劇三年の戀二場、座員總出演餘興文人手踊滑稽音曲萬歳劍舞舊喜劇武士と町人三場、二日目は笑劇すいなおばさん一場社會劇無言二場座員總出演餘興新劇文化地藏尊一幕

第六感
農奴の啜り泣く聲（十一）
黑頭巾評

黑「九十二」と飛出されて見ると白も今更乍ら憮然としたのである。

私の第六感は忽ちこれを豫期してゐた筈なのに

今は夜更けである。

革命前の露西亞のある文人が深夜ペテルブルグの大地に立てば農奴の啜り泣く聲が聞こえると云つたさうだがこれは非常に發達した第六感で聞き付けたものである。

私の深夜は何ぼう鈍い私の耳にも色々な微かな物音が聞こえる。

犬の遠吠へ（これは遠吠へに限る、鷄明だか、）

鷄の鳴き聲

時折する汽車の汽笛、たる響きカサコソと鼠が臺所へ忍びよる氣配の足音。寒析の響き等が可成り賑やかである。

だが、この間の晩とあるガードの下を通つたら、大勢のルンペン諸君が甘さうに寢を召し上がつてゐるのを見て安心して來たせいかルンペンの啜り泣く聲は何うしても聞えては來なかつた。

私は自分の不敏な第六感を歎ぜざるを得ない。

圍碁新手合（一局の十一）

三段　石塚行誠
五子　高橋直次

九十二　ヨノ十二
九十三　ヨノ十一
九十四　タノ十一
九十五　レノ十六
九十六　ソノ十六
九十七　レノ十一
九十八　ヲノ十二
九十九　タノ十
百　チノ十
百一　タノ十三

餘計な手

白「九十三」はまあこう切つて行くより他には手のない所。即ち黑「九十四」白「九十五」迄は當然である。

黑「九十六」は全く餘計な手である。

その效果と言へば白「九十一」の鼻ツ先を强くした位のもので、黑自身の方では駄目を詰めた外に何かの場合の劫立てを一ツ損した丈けである。一寸した事のやうでもこういふことは注意すべきとの事である。

黑「九十八」は行きがけの駄賃でもあるし又それへ白に打たれると白は直ぐに活きてしまふのだから肝要な所である。

棄てゝも充分

白「九十九」で萬一（百）へ粘ぐと、黑（い）白（ろ）黑（は）白（に）黑「九十九」白（ほ）黑「百二」白（は）と三目粘いだ時に黑も亦（へ）粘ぐ事になつて白は一方の大石を取られる

又黑（い）の時に白（ろ）と粘かずに「九十九」へ飛ぶと、黑（ろ）と切り黑「九十二」「九十四」の二子は棄てゝも充分である。

それから白（百）と粘いだ時に黑「九十九」へ尖むと、何うなるか。

白直ぐに「百二」と出て黑（へ）と）白（ち）と切り黑（い）と押しても白（は）と締めて黑は行けないのである。

そこで黑若し「九十六」白「九十七」の交換がなかつたならば、黑（り）と當て白（ぬ）と粘いだ時に黑（い）白（は）黑（ろ）白（ほ）黑（る）となつて白が參つてゐるのである。

黑「九十六」の駄目はこんな場合に役に立つものである。

振り替り

白「九十九」の時に黑（へ）へ押すと白は（百）と粘ぎ黑「百二」白（を）黑（わ）白（か）となるが、こゝで黑（よ）に（よ）と粘ぐと白「百一」で黑（た）と切つても白（れ）と粘いで黑は行けないから黑に「百」粘ね込み白（そ）黑（よ）白（つ）黑（た）白（ね）黑（れ）となつて白（な）と覗けて振り替りになるかも知れない。

野菜相場

新京市場小賣相場表
五月十七日「菜果之部」

種別	値段	種別	値段
白菜	四八	蓬蓮草大連物	[illegible]
サツマ芋	三四	里芋	[illegible]
山芋	[illegible]	赤芋内地	[illegible]
ワタチ芋内地	[illegible]	牛蒡	[illegible]
蓮根	[illegible]	白大根「大連」	[illegible]
丸大根	[illegible]	赤大根	[illegible]
玉葱	[illegible]	人參	[illegible]
生姜	[illegible]	ウド	[illegible]
ワサビ	[illegible]	内地葱	[illegible]
玉菜	[illegible]	カブラ 大・小	[illegible]
馬鈴薯	[illegible]	水菜 同	[illegible]
ユリ子	[illegible]	ミツ葉 大・小	[illegible]
セリ内地	[illegible]	ワケギ内地	[illegible]
春菊大連	[illegible]	胡瓜内地	[illegible]
林檎	[illegible]	内地梨	[illegible]
大津梨	[illegible]	ミカン	[illegible]
テーブル	[illegible]	西瓜	[illegible]

公示催告

新京三笠町三丁目十七番地
北原廣

右申立人ハ左記表示ノ證書ニ付公示催告ノ申立ヲ爲シタルニヨリ其所持人ハ昭和八年十一月三十日午前九時迄ニ當館ニ權利ヲ届出テ且證書ヲ提出スヘシ若シ右期日迄ニ届出及提出ヲ爲ササルニ於テハ其無效ヲ宣言スルコトアル可シ

昭和八年五月十五日
在新京日本帝國總領事館
領事　花輪三次郎

目録
一、證書の種類約束手形
一、額面金一萬七千圓也
一、振出人新京日本橋通二十四番地　櫻井平三郎
一、受取人新京三笠町三丁目七番地　北原廣
一、滿期日ナシ
一、振出年月日昭和七年十月十日頃
一、支拂地不明
一、最後ノ所持人北原廣以上

告示

當館領事花輪三次郎ハ本月九日附ヲ以テ外務大臣ヨリ當館在勤中領事官職務規則第十五條ノ二第一項第二號ノ領事官ニ指定セラル右告示ス

昭和八年五月十三日
在新京
總領事　栗原正

黒船往來

原作者・映畫上演權所有

(作)寺島柾史　(畫)布施長春

第六十三回　黒船の難題(三)

やがて、番屋内が急にざわついた。

談判は遂に終つたのだらう、フランス士官の一行は、荒々しく扉を蹴つて戸外へ現はれた。それを見送つて出て來た、宇太夫はじめ、[illegible]の面々の人たちの顏色も、妙に靑ざめてゐた。

が、おもてむきやはり、日本人らしく無感動、無表情を裝ふて、丁重に金ピカ連やそれを護衛する水兵たちを見送つてゐる。

砂原に、陣形をくづしてゐた徒士、足輕たちも、そのにはかの歸艦におどろいて、これまた、急に威嚴儀式に整列し、無言、無表情に警備の任に復した。

その中を、モリエール少將はじめ、金ピカ連、それにつゞく水兵たちは、威風堂々と、しかしその林のやうに靜かな、無表情な視線の[illegible]面體を、むしろ薄氣味わるく感じながら、波打際の端艇へ急いだ。

そのとき、警備の足輕組の中から、とつぜん、列を亂して使節一行に近づき、前進をさへぎり止めた者があつた。

この足輕は、いふまでもなく格之進だ。彼は、三番目の通譯官の身邊へ駈け寄り飛びつくやうに、荒々しくわめいた。

『典膳、待て！』

この、不意の狼藉者に驚いて、金ピカ連も護衛の水兵たちもおもはず足並をゆるめた。

が、砂原に整列する徒士、足輕たちは、依然として、林の如く靜肅をまもつてゐた。ただ徒士目附二人が、事務的に無表情のまゝ狼藉の格之進を追ふて來た。

『典膳、待てい！』

抑制力を失なつた格之進は周圍のもの一切が眼に入らず、憎むべき通譯官一人に、血走つた眼を鋭注し、さらに大聲にわめいた。

それを尻眼にかけた、當の通譯官の片頬に、冷笑がうかんだ。彼は、格之進に應へず、立停つたモリエール少將にいつた。

『どうぞ、閣下、狼藉者に介意せずお急ぎ下さるように……』

そして、おのれも、平然と前進した。

『うぬ、典膳！おれを見忘れたか！待て待てい！』

格之進は、カッとなつて叫び、いきなり典膳の上衣の裾をとらへた。

『えいツ！狼藉者が』

典膳は、足をあげて、相手を蹴つた、

『あッ！』

脇腹をしたゝかに蹴られて、よろ／＼と不覺にも泳いだ。そこへ二人の徒目附が、同時に飛込んでいつておさへつけた。

『どうぞ、閣下、お見のがし下さるやう、訓練のない日本の雜兵です。閣下の御威風に壓せられ、精神錯亂したものとみえまする』

典膳は、あくまで平靜を裝ふてモリエールにいつたが、更に

『各自方も、意に介せず前進せられたい』

と、反射的に銃をぎしてゐる、フランス水兵たちの輕擧を制するほどの、餘裕があつた。

『うぬ、僞通譯官奴、典膳！』

『……』

『こ、このおれを見忘れたか。おれだ。[illegible]だ』

徒目附におさへつけられ、砂地にへたばりながらも格之進は口惜しさうにほえ立つた。

『……』

が、典膳は、もはやそれを尻眼にもかけず、ゆう／＼白沙のうへを歩いてゆく。